

見玉尼公を偲ぶつどい

蓮如上人の二女、見玉尼公は吉崎に縁が深く、御山には見玉尼碑があり、吉崎別院に御影、打敷、御文も収蔵されています。更に所蔵している龍女絵図は劣化が激しかったため、皆様のご協力のもと、昨年修復いたしました。

このたび、改めて見玉尼公を偲ぶ機縁として、開催いたします。

日時 2023年9月14日(木) 午後1時30分～

場所 吉崎別院本堂

講師 阿部 法夫 氏(福井教区第3組長善寺住職)

内容 勤行、法話、座談(又は感話)

～見玉尼公について～(吉崎御山：見玉尼公墓石より)

見玉尼は蓮如上人の第2女で母は伊勢氏平貞房の娘如了。文安5年(1448)の生まれ。7歳で母を失い、禅寺へ喝食にやられ、後京都吉田の浄土宗攝受庵見秀尼の弟子となった。

文明2年、3年と続いて伯母と姉を失い、文明3年、父蓮如上人を慕って吉崎へ来られたが、間もなく病にかかり、26歳の若さで没した。

その間に吉崎御坊の完成を見て喜び、真宗の安心を得て往生した。

上人は御文の中に、「8月15日の茶毘の暁方の夢に、白骨の中から全佛が現れ蝶になって涅槃の都へ飛んでゆくのが見えた」と記されている。



見玉尼影像

